



隣の芝生は青く見える



校長 小川 政博

『子は親を写す鏡』ということわざがあります。「親の考え方や言動がそのまま鑑のように子どもに映し出されるもの」と言われていますが・・・。

PTA会員の皆さんは、子供たちと接していて「考えていることがよく分からない」「価値観が自分たちの頃と全く違う」と感じたことはありませんか？最近、「ミレニウム世代」「Z世代」といった言葉を耳にすることがあります。何となく「自分たちとは価値観が異なるらしい」「これまでの世代と何かがちがう」と捉えている人もいます。

生まれた年代によって価値観や考え方に影響を受けるといって、いわゆる「世代論」の考え方は古くからあります。「ゆとり世代」は○○○「団塊」は○○○・・・、まことしやかに交わされる世代論。少なくとも「世代間ギャップ」を感じた経験は多くの方々にあることと思います。1つの傾向として、世代によってどんな特徴があると言われているのか、ちなみに自分はその世代に入るのかなどを概観してみることが子供たちへの理解を深め、歩み寄り添うためのヒントになるかもしれません。そこで新しい世代として注目されている「Z世代（96年以降生まれ）」に焦点を当ててみます。

(1) 世界は不安定なもの
Z世代が育ってきた時代の代表的な出来事は、アメリカ同時多発テロとリーマンシ

ョックに端を発した世界的な不景気。Z世代は物心ついた頃からニュースなどでテロの話題に触れる機会が多く、この世界が孤独で不安な場所だと無意識レベルで刷り込まれているそうです。モノやお金といった経済的な価値を絶対視することなく、より本質的で自分にとって大切だと思う「目に見えないもの」を大切にしている傾向があるとも言われています。

(2) ブランドよりも自分らしく

Z世代の特徴の1つに「多様性」があり、多くの人がどう評価するかを気にするのではなく、好みや感じ方は人それぞれであるのが自然と感じる人が多いと言われ、「成功してタワーマンションに住みたい」「一流大学を卒業して一流企業に勤めたい」といった欲求も、他の世代と比べると低い傾向にあるようです。また、収入よりも、安定して長く続けられる仕事を好む傾向があるとも言われています。

(3) SNSでのコミュニケーションや感動の共有を重視する

SNSを利用するにあたって、Z世代は不特定多数の人に自分のプライベートを見てもらいたいのではなく、知っている人、身近な人と感動を共有したいという心理が強く働く傾向にあるそうです。情報を発信するのであれば、自分のことを理解してくれる相手、自分のことを理由もなく攻撃するリスクの低い相手であってほしいと考える。物心ついた頃から日常的にSNSに接し、炎上や誹謗中傷などのリスクを身近に育ったZ世代にとっては、SNSは不特定多数の人に向けて貪欲に情報を発信するためのツールではなく、現実世界で認知できる範囲の人とのつながりを強めるためのツールとして考える傾向を持つそうです。さて、社会的自立を目前に揺れ動く高校生、生、の傍らで、毅然と、支え、背中を押している保護者の皆さん。スウェーデンやネイティブアメリカンなどの格言に「喜びは分かち合うことで倍になり、悲しみは分かち合うことで半分になる。」とあります。

決して「隣のお宅だけが青々としている」わけではありません。今回ご紹介しました『Z世代論』も話題の1つです。白老東高校の保護者同士が共感し合い、悩みを半分に、喜びを2倍、3倍にしたい、ことが出来ればと願っております。

着任者紹介

- ① お名前 ② 教科名 ③ 前任校
④ 教員経験 ⑤ 分掌・部活動名
⑥ 趣味 ⑦ 何か一言

① 塚原 康隆 教頭



- ② 保健体育
③ 北海道札幌加内高等学校
④ 29年
⑤ スポーツ観戦
⑥ 皆さんの高校生活がより有意義なものとなるよう頑張ります。よろしくお祈りします。

① 白浜 みち佳



- ② 国語
③ 北海道清水高等学校
④ 9年
⑤ 教務部 茶道部 バスケットボール部
⑥ 登山 温泉巡り
⑦ 生徒の皆さんや、地域に貢献できるように、自分ができることを全力で頑張ります。よろしくお祈りいたします。

① 柚原 航太



- ② 地歴公民
③ 北海道函館水産高等学校
④ 5年
⑤ 生徒指導部・バドミントン部
⑥ 野球観戦
⑦ 本校のために全力で頑張ります。よろしくお祈りいたします。

PTA会長挨拶



PTA会長
齊藤 隆興

今年度PTA会長を務めさせていただきます齊藤隆興と申します。

新年度を迎え約半年が経過しました。1年生は学校生活にも慣れ、2年生は進路について本格的に考えていかなければならない時期となり、3年生は進学受験の準備・就職活動に日々忙しく学校生活を過ごされていると思います。

昨年度までは、コロナ禍のため様々な行事に制限がかかり、校長先生をはじめ教職員の皆様は対応に苦慮する非常に難しい教育環境であったと思います。また保護者の皆様にも色々とお負担を掛ける事も多々あったと思いますが、本年度からは規制もなくなり通常の学校運営が行われることをとても有難く感じています。

先日、PTA連合会の全道大会が小樽市にて4年ぶりに開催され、本校からは塚原教頭先生と私で参加して参りました。講演ではドラマにもなった「家裁の人」の原作者、魚戸おさむ氏による「漫画と絵本で描いた食生活」を、生きることに「食」を通して様々な角度からコミュニケーションの大切さを語って頂きました。

「大人と子どもの望ましいコミュニケーション」というテーマについてというテーマの分科会に参加しました。昔は親だけでは無く地域の大人も我が子を育ててくれるという環境があったが、現代では色々な面で親子のコミュニケーションが大切であるとお話がありました。本校家庭科授業の一環で高齢者大学の方にお手伝いをお願いをしてミシンの使い方を教えて頂いた事例をこの会で話したところ、とても素晴らしい取り組みです。ねと参加者からお声を頂き、他の地域でそういう学校は非常に少ないという学校は非常に少ないというお話でした。学校教育の中に地域ネットワークの構築も含まれており白老東高校は時代に先駆けた教育を率先して行っている、今後の進展に非常に期待しております。

最後に、保護者の皆様にお話ししたいのは、PTA活動が一番重要なのは、親が先生方の一番の味方・応援団になること、先生方が安心して全力で子どもたちと接する事が出来る環境をつくること、これが非常に大事であると考えます。

本年度もPTAでは、生徒が実りある学校生活を送るためのサポートを出来る限りして参りますのでご理解ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

入学式



【敬称略】

令和5年度 PTA役員・委員会名簿

会長

齊藤 隆興

副会長

堀部 貴志

監査

小澤 香

生活委員会

櫻田 克孝

秋山 恵

川村 真澄

佐藤香名子

林崎 奈緒

菊地美恵子

菅田真由美

広報委員会

土井 祐子

坂下 彩花

本間 恵子

大島 光代

佐藤カオリ

福田 勇人

大浦亜紀子

土田由紀枝

船越 真梨

坂本佑加子

村岡加代子

三上由美子

研修委員会

よろしくお願いします！

1学年 陣屋探究



仙台藩白老元陣屋資料館



私は陣屋を初めて知った時からとても興味を持ち楽しみだったこともあって、調べている時間や実際に陣屋に行つて学んだ時間がとても楽しく、有意義な時間となりました。

北海道にこんな場所があったことを知り、実際に行ったら楽しいだろうとも思っていた私は、調べていく中で陣屋には北海道では自生しない赤松があることを知りました。そのこともあり、早く陣屋に行つて色々見てみたいと思うようになりました。

いざ着いてからは、資料館の中で三年生の先輩方のガイドに耳を傾けたり、郭を見学したり、神社を訪れたりもしました。期待していたとおり、陣屋は楽しいと思いつながら、歴史について学んでいきました。館長さんや先輩方の解説がわかりやすく、すぐに理解することができました。色々と陣屋の事を知った後は、グループ毎に分かれて個別のテーマについて調べました。私の班は草刈運太郎の事について調べました。館長さんが車で草刈運太郎に係る場所に連れて行つてくださったりして、楽しく学んできました。

資料館に戻り、発表のためのポスター作りをしました。思っていた以上にスムーズにできがあり、これも館長さんのおかげであると感じています。発表の場でも、調べたことをしっかりと伝えることができ、無事に終えることができたので安心しました。

今回のことを振り返り、楽しく学ぶことができて良かったと思いましたし、良い勉強になったと思います。

陣屋探究の感想

1年A組 西村 匠弥